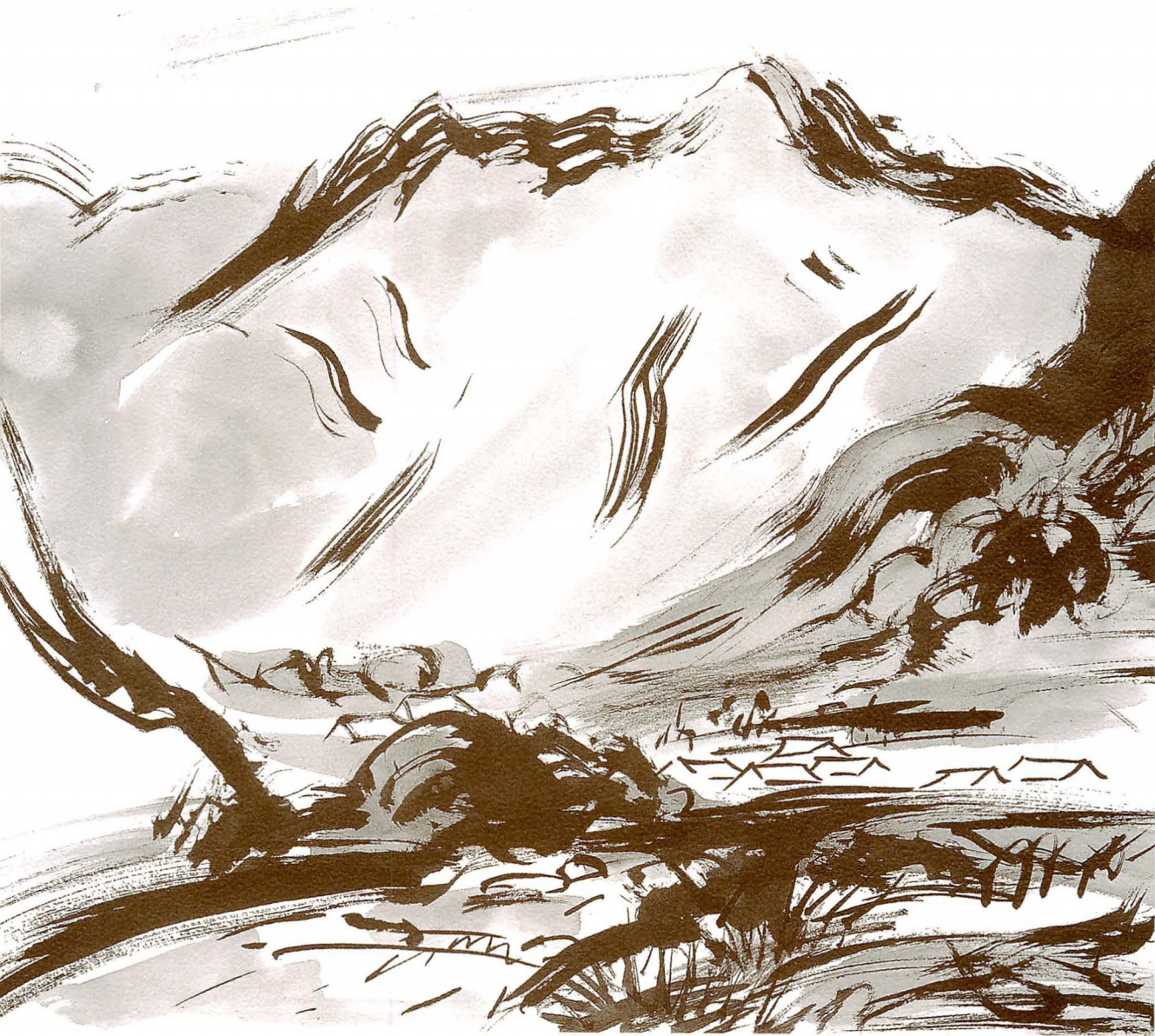


# 井内社寺誌

(復刻版)



井内老人クラブ

井内社寺誌

## 序

井内と言う名の地名が出来たのは、随分古い事になるが、その範囲や境界がはっきりしたのは幕藩体制が生まれ庄屋が置かれてからである。四百年も昔の話になるのが庄屋単位の村が出来てそこが小部落に分割され統治されるようになった。そのため小部落にはそれぞれ社寺堂庵が設けられて祭祀した。明治になるとこれらの社寺堂庵の運営に多大の費用がかかるので政府が合祀を強引におし進めた。その結果、井内各地にあった社寺堂庵が社寺誌が示すように変わって行ったのである。

社寺誌による社寺堂庵の祭神を調べて見ると、その殆んどが農耕と関係があり、家内安全と関連がある。これは医療機関や気象に関する知識がなかったため、すべてが神頼みであったからである。天正時代の合祀にもかかわらず住民が祭祀した意味も理解できる。

その庶民の願いの跡を訪ねて丹念に井内社寺誌を作ったのが北川徳次郎さんであった。八十年近くの歳月を経てその復刻再版してわかり易く現代版化しようとして鋭意努力されたのが菅野壽明さんである。井内老人クラブが賛助して応援する事になって再版の実現を見るようになった訳である。多少の注釈、それに写真を加えて刊行の運びになったのである。

原文の井内社寺誌を作られた北川徳次郎さん、中心となって再版を推進された菅野壽明さん、それに協力して各地を踏査した井内老人クラブの皆さんの労苦が結実して完成を見る事になったものと思います。ここに諸賢の団結に対して深甚の敬意を表して発刊を祝い歓びの序と致します。

平成十九年十二月吉日

東温市文化財保護審議会々長

酒井 孝

## 「井内社寺誌」復刻に当たって

今回、井内老人クラブが平成十九年度事業として「老人クラブ活性化事業」の指定を受けて実施したもので、その事業のうち、文化伝承事業として「井内社寺誌」を復刻編纂したものである。本誌は、昭和三年に、北川徳次郎氏が、井内地区内に点在していた神社、寺院を巡歴されて、その実態を詳細に記述された唯一貴重な資料である。然しこの社寺誌の残部も殆んどなく、当時のガリ版刷り美濃紙に印刷せるものにして、約八十年の歳月を経た今日においては、劣化甚だしく、このまま放置するには余りにも残念であり「今やらねば誰がやる」の蛮勇に燃えて取組んだ次第である。

本誌復刻に当っては老人クラブ役員諸氏に編集委員を依頼して平成十九年四月より同九月にかけて社寺誌の地番を辿り、写真撮影など現地踏査を行った。然し八十年経過した今日、その

所在すら確認出来なかつた処も数ヶ所あり、時代の流れとは云へ尋ねる先人古老も今は亡く残念の極みであった。

然し、地区の住民有志の方々の現地踏査の案内役となり、又励ましの好意を受け後押しされた思いであり謝意を表する次第なり。

井内に点在して居た古社寺は殆んど合祀統合されたとはいえ、その祠は現存し、今尚地区民の参詣せる社寺もあり、井内の歴史の一頁として、後世に継承致したき存念なり。

併せて、古社寺誌発行者の「北川徳次郎氏」の略歴を（川内町誌、人物小伝より）抜粋してその業績を偲ぶこととした。

最後になりましたが、本誌復刻編纂に当たり、東温市老連及び東温市立歴史資料館関係機関よりの御指導御助言に対し厚く御礼申し上げます。

平成十九年十二月吉日

東温市井内老人クラブ

編集委員一同

## はしがき

時うつり、世かわれば凡ての事物悉く昔のままならず。わが井内の一小部落内における神社及び神社跡の数卅五の多きをかぞうるも、昔天正の比、台命により氏社に合祀されたるものは七社なりと伝う、而して合祀されて旧の位置に神社は無くなりしに拘らず、又々そこに祠が設けられ、旧に倍する崇敬を集め、或いは又新たに勧請されたるもありて、神社の数しだいに増し、明治初年には藩命により二十三社が合祀されたり。以てその盛んなりしを思うべし。

さきの合祀によりて一旦廃社となりしところに、依然として社殿あり崇敬弥厚きに到りて再度の合祀ありたるがため、現在、村社吉井神社の祭神は、実に六十座の多数に上れるその中には、御一体の神にして同一社より二度合祀され

給いし物さえ稀ならざるが如し。

斯くて明治初年の大合祀によりて殆んど各神社の跡は田となり、畠となり、あれはて、雑草のしげるにまかせるもあれど、中には現今尚依然として小祠残り昔日の俤を伝ふことあり。

我若かりし頃に親しく見たる廃社の跡につきの記憶も今ははや忘れ勝にて、又他にも我等と同じく往時を知る者少くなれり。かくて、この後の人々には何処に如何なるものありしやをすら知る由もならんことを遺憾に思いこゝに我が記憶に残れるまゝを辿りて又記憶に漏れたるものは、先輩或は同輩に尋ね、今は既におどろと化せる古社地の跡を探查しこゝに当時の面影を略記すること、せり。

我既に齡七十六、まことにたどくしき記録をのこすこと世の笑いを買うや必せりと憶えども此の秋行はせらるゝ

今上即位の御大典記念せんこゝろもて此小冊子を作る、若し後の人のために何かの参考ともなり、尚之を笑うて完全なる神社誌を編纂する人もあらんか我が幸何か之に過ぎん。

書中「あり」若しくは「ありたり」とあるは明治初年のことを言えるものにして、現今存在するものは特に「現存す」と記せり。又神社を書きたる序（ひょうご）に、我部落内の仏堂をも加えたり、世相のうつりかわりは之も亦何時廢せられ、或は移転され等さるべきことを思えばなり。

昭和三年十一月 北川徳次郎 識

## 凡例

- (一) 「各社寺誌」文中（ ）書き、振り仮名は追記した。
- (二) 「……………」今回平成十九年の踏査時の模様を記す。
- (三) 写真は平成十九年四月～九月に撮影したものである。
- (四) ※印は今回追記した。
- (五) 本文中、明らかに誤記とみられる字については適宜訂正した。
- (六) なお「井内社寺誌」に漏れた神社については、新たに「番外編」として追記した。
- (七) 「井内社寺所在位置図」を、本巻末尾に添付した。

## 北川 徳次郎 自治功労者

北川徳次郎は、嘉永六年五月三日、大字井内大平に生れた。父は伊平、母マツヨ、幼名を弥蔵と云ったが慶応三年元服して、徳次郎と名を改めた。明治八年、恵良の菅野信吉の次女ユキと婚姻、ムメヨ、淳一郎の一男一女を挙げた。明治十一年家督相続。

昭和十一年二月六日、松山市道後岩崎町、淳一郎宅で脳溢血のため死亡した。享年八十四、井内大平法泉坊の墓地に葬る。

### 法名 浄巖院桂山道英居士。

徳次郎は、明治九年大平組伍長を勤めて以来、区会議員・区会議長、区長、村会議員、善城寺壇家惣代、吉井神社氏子惣代、三内村長等公共のため尽くすこと五十年、大正十三年松山市に出でからは悠々自適した。

徳次郎、性質極めて謹直、丁寧、慈善の心深く、儉素勤勉であった。幼少の頃から「儉約と勤勉より他に生くる途なし」と確信しこれを実行した。墓地や、道路などには異常な関心を持ち、墓掃除道普請等には、特に精励して郷人の模範となった。今日井内は換金作物として莫大な櫛の木を売り出すが、これは徳次郎の創始によるものである。

明治二十三年四月、井内村の墓地を調査して、正確な過去帳を作成した。また昭和三年「井内社寺誌」を著した。村の物識りであり、記憶力がよく、武家時代の歴史に精進し、これを研究することを、無上の楽しみとした。常に皇室を崇敬し、敬神崇組の念に厚かった。俳句・囲碁・浄曲等に趣味をもっていた。

# 目次

11	10	9	<b>恵良之部</b>		8	7	6	5	4	3	2	1	<b>大平之部</b>	
地蔵堂	山神社	瀧本神社			香積庵	古堂	天神宮	荒神社	権現社	山神社	天王山	横瀧山		
.....	.....	.....			.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....		
19	18	17			16	15	14	13	12	11	10	9		

25	24	23	<b>六地藏之部</b>		22	21	20	19	18	17	<b>中矢之部</b>		16	15	14	13	12	<b>成ル之部</b>	
六地藏堂	二ノ宮神社	一ノ宮神社			地藏堂	奈良原社	熊野神社	迦登美古神社	新居田社	風宮社			善城寺	地藏堂	梅 <small>つが</small> 村神社	金毘羅宮	三島神社		
.....	.....	.....			.....	.....	.....	.....	.....	.....			.....	.....	.....	.....	.....		
35	34	33			32	31	30	29	28	27			24	23	22	21	20		



北間之部

26 北間神社……………36

27 若宮神社……………37

28 齋院さやノ神社……………38

29 天満宮……………39

30 地藏堂……………40

庄屋元之部

31 吉井神社……………41

32 金毘羅神社……………49

33 山之神社……………50

34 地藏堂……………51

35 大通庵……………52

中野之部

36 善神社……………53

37 山之神社……………54

38 圓満寺……………55

39 馬野寺……………58

久尾之部

40 天神社……………59

41 聖ひじり神社……………60

42 白尾神社……………61

43 地藏堂……………62

大根木之部

44 天王社……………63

45 山王社……………64

46 西之宮……………65

47 觀音堂……………66

黒岩之部

48 水神社……………67

49 西山神社……………68

50 觀音堂……………69

番外編

大根木山之神社……………74

久尾山之神社……………75

久尾春尾権現社……………76

# 1 横瀧山

赤松山の頂に在り、明治初年迄は木造の祠ありしが今は（昭和三年現在）石祠に改められたり。祭神は祠石に刻するところによれば、八大龍王並びに善女龍王と知らる。善城寺別当たり、古来井内川東中の雨乞所にして、早ばつ時嶽下の岩根に小屋を設けて参籠し、別当寺住職の小屋は別に高所にしつらえ雨乞の祈祷を行うこと今もかわりなし。

善神ヶ森より横瀧山迄の間に三十六王子を祭祀すると云われ、其の一にしてこの宮極めて古き歴史をもつものの如し。



「札の辻から赤松山の采添に上る道急峻なり 約一、〇〇〇米位昇り、岩山に突当り更に五十米位昇った処にあり」

2007年7月撮影

## 2 天王社

甲二千五百三十五番地に在り、以前は正面二尺四寸櫺造りの正殿未申（南西）に向つて栗木造りの狭屋さやの内にありしが朽ち果てて今はその影だに止めず、後年、天王社跡と記せる小碑を建てたり、祭神は須佐之男の命なり。

社地には径一尺余の梅の古木（欠字）径二尺五寸の杉三本同二尺の杉三本等ありしが何れも今はなし、又当時は毎年六月十五日の祭礼に幟二本を樹てたるも今はそれも絶えたり。



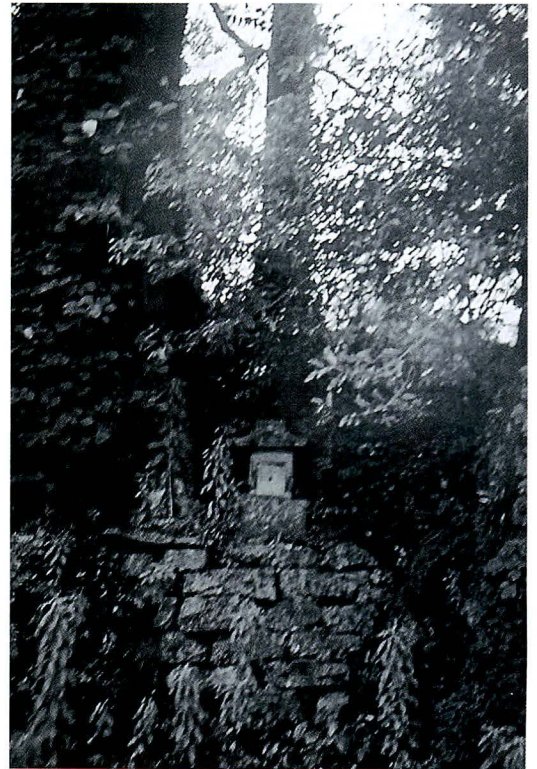
「周囲は全山密畑なり草むらに小碑のみあり」

2007年7月撮影

# 3 山 神 社

甲二千五百三十四番地に在り、往時は木造の宮なりしも朽ち果て、今は石造の小祠に代り僅かに名残りをとゞむ、その祠成亥いぬい（北西）に向つて建つ、祭神は大山積神おおやまづみのみことにして、当時は径六尺に余る櫛傘の形したるものの外径三尺乃至三尺五寸の杉六本同一尺乃至一尺五寸の松二本、四尺余の桜一本等、横道の上下に枝を鳴らして茂り合いたりしが明治初年伐り払われて影も止めず

※大山積命：山の神、海の神  
別名和多志大神とも言う。



「榎の木雑木茂り森となり社の境内を想わす」

2007年7月撮影

## 4 権現社

甲三百十九番地にあり、正面二尺八寸板葺の正殿鋏屋の内にあり、亥子（北微西）に向う、別に瓦宮二祠あり祭神は（記されず）

祠傍径二尺八寸ばかりなる棕の大樹あり、往年径三尺ばかりの杉四本、同二尺位のもの二本径一尺六寸ばかりある檜一本その他雑木の森ありしも今や伐り払われて棕の一樹残るのみ



「後年ブロック積波トタン葺に改修され石像を安置する」

2007年7月撮影

# 5 荒神社

三百十二番地嶽の下にあり、いにしえは嶽の上  
 上にあり、社殿も正面（欠字）尺に四尺の檜皮ひわだ  
 葺ぶきの正殿、二間半に三間の拝殿あり、別に一小  
 石祠ありたりしが、破損したる際之を嶽の下に  
 移し正面二尺四寸の正殿、方二間の拝殿が現存  
 のものなり在したりき、祭神は奥津比古おくつひこ、奥津  
 比売ひめ二神にして往時は年々神楽を奏し、幟二本  
 を献じたりしも今は廃れたり。

その嶽の上うへにありし頃は左右に径五尺ばかりの  
 檜一本宛あり、社前の小溪には外に六本内に数  
 本の大杉の外数多の雑木茂り合あい、上の道井手  
 外には一本の杉又、拝殿脇わきに一本の棕すと外に数  
 本の桂ありて、社相莊嚴なりき。

※奥津比古  
 奥津比売  
 竈かまどの神様・かまどの下の余燻

大年神  
 天知迦流美豆比売神  
 婚姻・十人の神が生まれる

「戦後の災害により流失したと聞く、確  
 認不能なり」



# 6 天 神 宮

四百四十二番地にあり、山林一反七畝二十三歩を社地とす、社殿は明治三年合祀の際村社吉井神社の境内に還されたるが、当時は方二間正殿の内に方一間の神殿あり、その内に更に又小室を設けて神座とせり。

祭神は大巳貴命おおなむちのみこと、少名彦命すくなひらのみこと、並菅公御霊なりと云わる、が、其御神体九体ありて、内三体は僧形そうぎょうのもの存す、如何なるものによ、

此社慶応三（一八六七）年に改築する迄は方三間の拝殿を有したるなり。境内には、大華表かひょう（鳥居のこと）一基、石燈籠一对、石の手水鉢一個あり、大榎茂り合いて田畠を掩い、尚徑二尺五寸余の大檜その他桂数本、雑木あまたあり

たりき、又幟二対、大小太鼓をも備えたり。

※大巳貴命…大国主命のこと。大物主命（おおものぬしのみこと）、大穴牟遲神（おおなむちのみこと）、葦原色許男神（あしはらしこのおかみ）などの名あり

少名彦命…大国主命が出雲国の美保岬にいた時、海の向こうから近づいてきた小さな船に乗っていた、蛾の皮をまとう極めて小さな神。

菅公…菅原道真公。火と雷の神、学問の神。

「現在大平集会所が現地番にあり神殿は現存せず」



7 古堂

甲九十一番宅地にあり、今法泉坊にある香積庵の古地にして、明治三十五（一九〇二）年庵を移転して以来ここを古堂と称す、庵のこゝに在りし当時は径四尺もある榎の木四本径三尺ばかりなる榎一本あり、また譲り葉の大樹辰巳（南東）の方、田の上へ横に伸びて枝を張り居たりき。

古えの香積寺はこの地にありしものにあらずやと思わる。



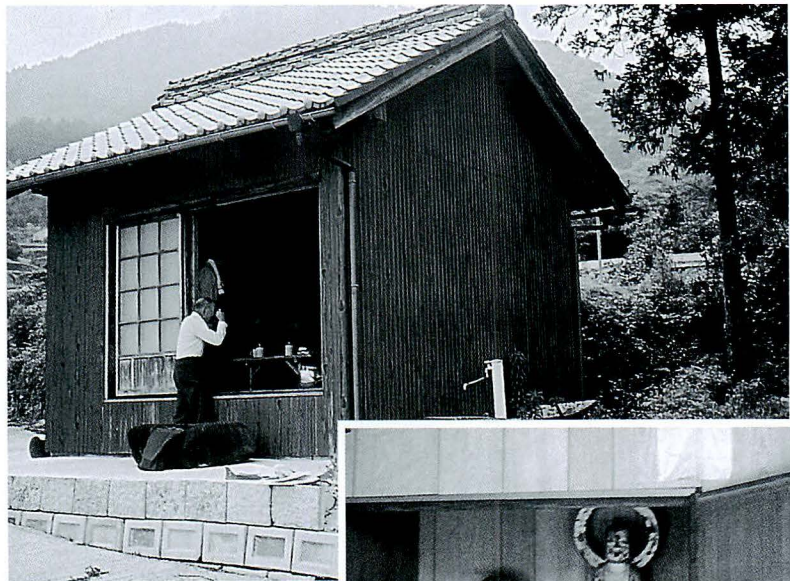
「四面水田の畦に小石祠あり小灌木のみ」

2007年7月撮影



# 8 香積庵

字法泉坊四百三十番地第一道の上であり、二間に三間半の堂宇北向に建ち、本尊ほんぞん延命地蔵尊えんめいじぞうそんを祀る。堂の前に石の手水鉢ある外僅かばかりの若木あるのみ、此の庵元、字中井手下甲九十一番地にありしが明治二十五（一九〇二）年こゝに移されたり。



◀ 外部



内部▶

「法泉坊墓地参道の旧社地跡に一間半四方の瓦葺小庵を新築 現在に至る」

2007年7月撮影

## 9 瀧本神社

乙六百三十二番地にあり、嶽に沿いて正面五尺ばかりの正殿あり、その前に方三間ばかりなる拝殿あり、

祭神は多紀理比売命たざりひめのみこと、伊弉冉命いざなみのみこと、早玉男命はやたまおのみこと、事解男命ことさかおのみことの四柱にして年々神楽を奏し大幟四対を樹てたりき、

又正殿北側に乳母神の小祠あり、境内は川を跨ぎて溪谷の底にあり、大櫨、檜各数株谷を塞ぎ拝殿前には杉の並木あり、又椿、桂、真竹、雑木など叢りむらか茂りて昼尚暗く参詣者も気味悪がりし程なりしが今や小さき自然石の手水鉢のみいばらの中に残る。

※瀧本神社の祭神：紀州熊野神社系で、多紀理比売、伊弉冉命は古事記、日本書記に出る。本地垂迹説で速玉男命は、須佐之男命、事解男は熊野久須卑の神とも云う



2007年7月撮影

「当地番では確認不能（林道）開通により社跡埋没したのではないか？」

# 10 山 神 社

経やおの森にあり、東向に石の祠建つ、祭神は大  
山やまづみのみこと祇神なり、この社地風景絶佳にして、現在尚  
保存されあり、二本の傘松一本は径二尺、他は  
一尺八寸ばかりのものと小松二本、及小雑木祠  
傍にあり。



「傘松は朽果て周囲は杉及び雑木あり風景殊の外良し」

2007年5月撮影

# 11 地蔵堂

五百八十二番地にありて堂は一間半四面地藏尊の石像一体安置す。

「町道改良工事のため、移転改築されたものなり、ブロック積を施し丁重に安置す祠脇に櫻の記念樹あり」



2007年5月撮影

## 12 三島神社

善城寺山にあり、正面四尺の正殿、六尺の狭屋の内にありて巳午（南微東）間に建つ、

祭神（記されず）

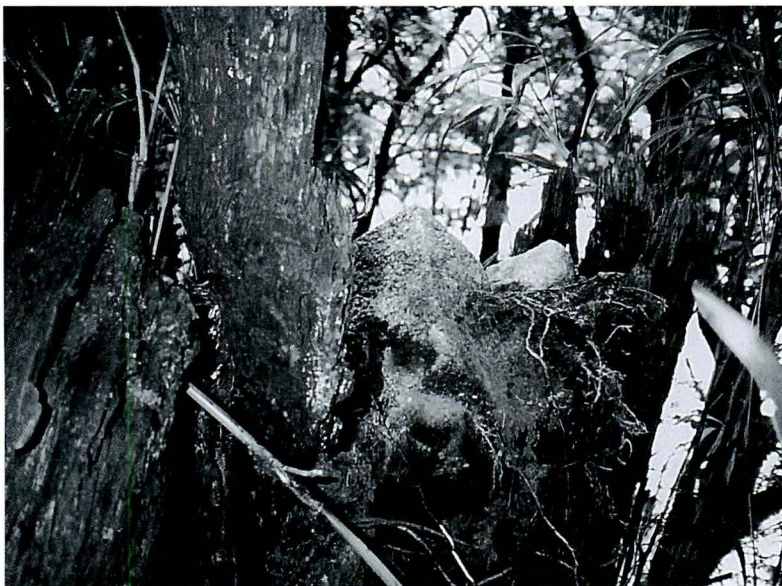
古き蝕める木像一体あり、近年は賽路も崩れ参詣者も稀なり、社地林樹善城寺の林につゞきて境界見分け難し、善城寺はその別当たり

※祭神：大山津見命（おおやまつみのみこと）、面足命（おもだるのみこと）、惶根命（かしこねのみこと）が一般的。

※大山津見命（おおやまつみのみこと）、雷神（いかづちのかみ）、高靈神（たかおかみ・又の名を閻添加美神（くらおかみ）の三神が普通。

※面足命は淤母陀流（男神）、惶根命は阿夜訶志古泥神（女神）とも云う。この二神は、三嶋神社の祭神にはない。

「善城寺山は今は雑木に覆れ踏査するも社地跡も確認は困難であった。別に生木の地蔵と呼ばれた像は石碑と成って、枯れた松の古木の中に在す」



2007年7月撮影

# 13 金毘羅宮

乙八百四十番地片山の上にある、石垣の小祠

巳（南南東）の方に向って建つ、

祭神は大物主命

おおものぬしのみこと

境内極めて狭く径一尺ばかりの松樹五本辛うじて生いけり。

※1・大穴牟遲（おおあなむぢ）神

2・葦原色許男（あしはらしこお）神

3・八千矛（やちほこ）神

4・宇都志国玉（うつしくにだま）神

等同一神

「寺山の裾、旧川東集会所跡地采伝いに百米位の所狭地に小祠あり、社地近辺はならその他勸木繁り、祠も倒れたる形跡あり松樹なし」



2007年8月撮影

# 14 柁<sup>つが</sup>村神社

乙八百五十六番地にあり、三尺ばかりの石畳の上に瓦の祠南向に据えられたり。

祭神は石鎚権現とも云えど詳かならず、その別当は善城寺たりしなり、社地八畝四歩あり、松二本（径二尺七寸位）小杉八本現存す、もと径三尺ばかりの松ありたるが明治十九（一八八六）年暴風雨に倒れたり。

※祭神…石鎚権現（石土毘古へいしづちひこ）神



2007年6月撮影

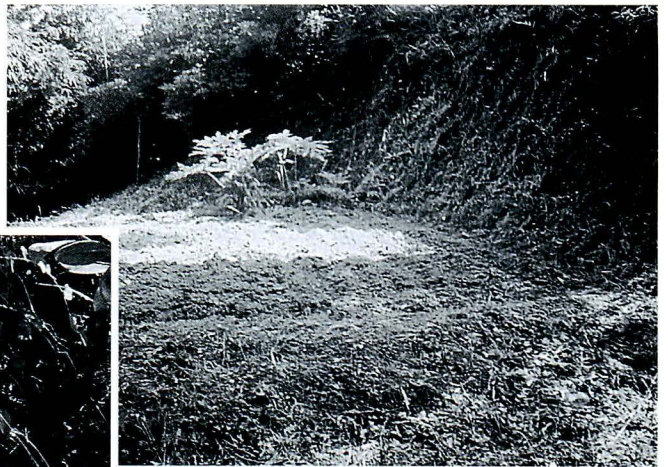


「成ル善城寺横より行く小道を辿りしが、休場なる処にて仲屋道に合流し上がること百米余り、小笹の茂みの中に祠あり、大杉勸木大樹あり見事なり、祠ら台石積乱れたるも往時の面影を止む」

# 15 地蔵堂

字東泉寺七百七十六番地にあり、一間半四面の堂巳午（南微東）向に建つ、石造の地蔵尊一体あり。

「現在畑地となり堂宇現存せず石造りの地蔵尊らしき像隣地の墓地に有りたり（当地の某氏より聞く）」



2007年8月撮影



石造り地蔵尊は写真の低い石像なり



# 16 善城寺

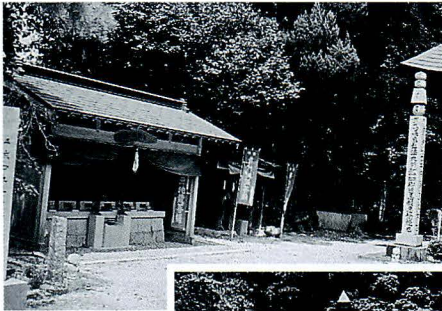
字瀧本甲七百二番地に在り、石林山善城寺高照院瀧本坊と号す、高野山金剛三昧院の末寺にして本尊は延命地藏尊、脇士は愛染あいぜん、不動の二明王、両大師並二阿弥陀如来あり、現在は新義真言宗豊山派に属す。

本堂は三間四面、庫裡は五間に八間半と、三間半に四間半の鍵形にして総建坪五十六坪余、廊下は幅三尺にして渡り二間半、経蔵は二間に三間の土蔵造り、長屋四間半に二間、其他の建物あり。

本堂脇に宝篋印塔ほうきょういんとう、一字一石塔、大師供養塔あり、正面中段に石燈籠一対立ち、山内には四国八十八ヶ所の札所設けられ、瓦、石或は木造の靈所山の上下所々にあり、寺山境域広くして全山松杉檜その他雑木繁茂し、春は桜花美しく

咲く。石段の中程に古塚あり、村人病氣平癒の祈願なごなたに薙刀を奉納する習俗あれど何の塚なるや知らず

此の寺元禄十二己卯かのとう（一六九九）年の建立にかゝるものなるが後出火ありて堂宇ちやう烏有に帰したるを、安永七（一七七八）年庫裡を再建し、本堂は文化十一甲戌きのえいぬ（一八一四）年三月再建したるものなり。



庫裡附属屋  
昭和三十二年改築  
本堂屋根銅板葺となる

2007年7月撮影



善城寺本堂  
川内西国33ヶ所結願所  
延命地藏菩薩を祠る



善城寺須弥壇（市指定文化財）

## 善城寺略 ①

当寺院は、石林山高照院 瀧本坊善城寺と号す。

当寺院は、約一三〇〇年前の開山と伝えられるが、寺史文書に記載される資料では、聖武天皇神亀五年開基、河野通郷中興す。と残されている。元々は高野山金剛三昧院の末寺

として御本尊は秘仏の延命地藏菩薩（行基作伝）、脇仏は莊嚴にして繊細な作りの不動明王、愛染明王、弘法大師興教大師、それに阿弥陀如来が並ぶ。本堂内は、総檜造りで特に正面の須弥壇（東温市指定文化財）は見事な仕上げとなっている。市内の他寺院にない古刹といわれる所以である。また、花山法皇も（永観元年〜永観二年）来寺されたと寺史に伝わる。

現在は、新義真言宗豊山派（総本山長谷寺）

奈良県に属す。当派寺院は、県内に八十二ヶ寺あるが、六番の寺格として河野七本寺の一つにも数えられている。尚、当山には日本全国的に見ても珍しい大白牛車だいばくごしゃ一字一石塔（当山文化財）があり是非拝観して欲しい石造文化財である。

その上、川内西国三十三ヶ所第三十三番、谷汲山華嚴寺結願所が並んでいる。また、中野地区に奥の院、月光山円満寺がある。本堂脇には宝篋印塔、一字一石塔、大師供養等、観音堂、六地藏堂があり、尚、身代地藏尊は当病平癒の祈願に御利益があると古くから、地元・市外からの信仰を集める。息災護摩、諸願成就などの護摩法要の盛んな癒しのシズかな寺院でもある。

(一)善城寺略①現住職第二十一世法印俊英氏よりの資料であり、本誌の善城寺記述と重複する処あるも掲載した。

(二)当山世代(法印)累暦についても記録に残りし、古文書より抜すいた。

(当山世代累暦)

第一開山法印秀調			
第二世法印證專			
第三世法印海範	元禄十五年		
第四世法印惠眼	延享二丑 八月五日	轉住又義濃国大垣遮那院へ轉住又	
第五世法印程應	宝曆十二年 九月二十七日		
第六世法印瑞仙	明和五子 十二月十日		
第七世法印政應	安永三年 十一月三日	程應資 字桂山丁	
第八世法印澄音	安永五甲 十月廿一日	了音資	
第九世法印了音	寛政七卯 四月十日	惠眼資高井村 西林寺へ轉六十七	
第十世法印道實	享和三亥 八月廿四日	中島 長隆寺へ轉住	
第十一世法印覺明	天保二卯 四月廿二日		北方村新左門子
第十二世法印覺眼	天保三辰 二月廿八日		
第十三世法印圓如	嘉永三戊		河之内円明資 金毘羅寺へ轉住
第十四世法印宥山	明治十丑松山町 今市學三至寺へ轉		圓如資明治二十年 大憲丁
第十五世法印覺如	明治十六未 三月初四日		円明資 茶全丁六十六
第十六世法印圓章	明治十八西河之 内金毘羅寺へ轉住		圓如資 大度丁
第十七世法印章圓	明治四十三年十月 松瀬川上福寺		石手寺章純資 章圓義勝丁
第十八世法印章雄	昭和廿三年三月王百 午前二時三十分遷化		石手寺章純資章圓 義勝★石手寺章純 資大教章世壽★
第十九世法印章法	昭和廿九年 七月五日		章圓資 義範 井内川東中屋生
第二十世法印義法	傳燈大阿闍梨 (中僧正)		松本義法九十歳 法騰四十五年
第二十一世法印俊英	十二月三日平成 十年より現在:		嶽山俊英 石手寺より

# 17 風宮社

乙八百七十七番地に在り、方丈の正殿の奥に更に小室を設けて神霊を祀る。

祭神は級長津比古、級長津比売の二神にして或時善城寺がその別当たり、祭礼には大般若經を転読し、結願けちがんの日には各組より神酒を奉り参詣する例なりき。社前には華表あり、径五尺の大檜、径三尺五寸の櫓、その他数株の檜と数多の雑木繁り居たり。境内到るところに大小無数の風穴あり、風宮社の名由よつて来るか。

※志那都比古（しなつひこ）神…志那は息が長い（空白）

奈良龍田大神



2007年6月撮影

風穴の一部



「社殿、華表なく、石祠台座石積の上に安置す（風穴の一部写す）石祠側面には仲屋組と刻さる、境内杉の大樹あり」

# 18 新居田社

八百七十五番地第一に在りて社地山林四畝二十三歩を有す。正面五尺の正殿西に向い、而して二間に二間半の拝殿ありたり。

祭神は月夜見命、つくよみのみこと倉稻魂命、うかのみたまのみこと来名戸祖命の三柱

境内には径三尺余の檜一本同大の桜六本の外桂雑木あまたあり、又竹林ありて昼尚暗き所なりき。

※月夜見命…月を読む暦の神 農耕の神

倉稻魂命…食物の神

来名戸祖命…賽の神 道祖神

「土地図面では風宮社の隣接地番なりしが、現地踏査で確認出来なかつた、現地は全て杉の植林地なり」



## 19 迦登美古神社

八百二十五番地にあり、正面二尺四寸惣檜造の改殿午未（南微西）向に建つ、是慶応元（一八六五）年頃東九左衛の寄進建造にかゝるものなり。

祭神は迦登美古大神なり、献納の幟二本あり、社地に径三尺ばかりの杉七本、その他雑木あまたありたり。



「社地は二段の石垣が積まれてゐるが、社殿はなく社地中央付近に大銀杏樹あり某氏の記念樹と聞く、樹齢百年超と推定され、晩秋の夕日に映へた黄葉は見事なり」

2007年6月撮影

## 20 熊野神社

七百九十八番地の二に在り、正殿は正面四尺、西に向つて建つ

祭神は（記されず）

小雑木あまた茂りあえる中に山椿咲き、殊に径二尺五寸ばかりの山梨の木あり（アリノ木又は裏白とも云えり）それに太股程の大藤からみ毎夏美しく開花しけるがその花房三尺に余り実に見事なりき。

「現地は、根無大橋より井内川右岸沿いに車道あり、根無川築堤作業道を辿り、所有者の案内を受け踏査するも確認出来ず残念の極みなり、付近の林は杉檜の成木林であり、雑木林なし。」



2007年7月撮影

# 21 奈良原社

イの谷九百七番地の一にあり、石造の宮南に向つて置かる、古小松十本ばかり現にその付近に叢る。

祭神は（記されず）

「此の社碑側面には当時の世話人の氏名が刻されてゐる。奈良原社は牛馬の守神として各地に祭られてゐると聞く、堅固な石祠あり岩山雑木林山頂付近にあり遠望絶佳なり。小道の参詣道あるも難所なり」



奈良原社社より北西を望む 2007年6月撮影



## 22 地蔵堂

八〇四番地にあり、一間四面の堂南向に建ち、石仏地蔵尊を安置す

「堂地は、旧道と仲屋車道の狭間にあり以前は組念佛など集会に使われたときくも、今は昔の姿を保つべく波トタン葺柱材など堅固なり。奥中央に石佛を安置され供物などあり。」



2007年7月撮影



地蔵尊

# 23 一ノ宮神社

千六番地にありて西向に六尺に九寸の正殿丈

五尺四面の拝殿ありき、

祭神は饒速日命、にぎはやひのみこと 罔象女命の二柱

社前、石の手水鉢あり、提灯十張、幟六本を  
献じたり、又社地には径三尺の大檜一本、径一  
尺四寸位の櫟二本同二尺の大檜六本その他山椿、  
桂数株あり真竹多く茂りたり。

古来当社と恵良の権現社と大平の天神社と三  
社輪番にて三年毎に奉納角力の行事今も尚存続  
す

※罔象女命…水の神

饒速日（みかはやひ）命…火の神

饒速日命…物部氏の祖神



2007年9月撮影

「当社地は、戦後開墾され畑地となり、  
現在一部は楡畑、と一部は荒地と化  
し真竹藪となり社殿及び、石の手水鉢  
も現存せず確認できなかつた」

# 24 二ノ宮神社

一千番地に在り、小板造りの正殿未申（南西）  
向に建つ

祭神は（記されず）

社地に径三尺八寸の大櫨一本径二尺余の桜六  
株山椿その他桂数本ありたり。

「当社地も一ノ宮社と同じく耕地となり  
現在田となり、昔日の面影を止めず」



二ノ宮のありし附近1,000番地 2007年9月撮影

六地藏之部

25 六地藏堂

二間に二間半の堂申（西南西）向に建つ、本尊は地藏菩薩にして行基が作なりと称する木造仏体を安置す。

堂前に大櫟あり。



大櫟古木

六地藏堂前に直瀬道の道標あり、往時は通行者の休場となった（大正九年之建）



地藏堂  
2007年8月撮影



地藏菩薩像

「当社地（甲七四ノ一番地）は道路改良（車道巾員二・五米）の際堀割となり西側に大櫟墓地を残して中央が道となり、その東の旧道との隣に二間に二間半角の堂宇瓦葺を再建して往時の仏体を安置す」

## 26 北間神社

千百八十二番地にあり、正面二尺二寸櫓造りの正殿戌亥（北西）に向つて板狭屋の内にあり、祭神は保食神うけものかみなり  
大櫓二本、社殿とともに現存せり

※保食神：饒速日命と同じ。

その他、宇迦之御魂神、大気都比売神、大宜都比売神、豊宇賀能売神など同神名多くある。



「北間、甘井正典氏宅地裏に現在す、甘井氏は屋敷神として祭る。丁重に保存に努められてゐる」

北間神社 2007年7月撮影

## 27 若宮神社

千八十一番地に在り、正面二尺の正殿狭屋に納まりて未申（南西）に向つて建つ、

祭神はかいのうみちもり戒能通森靈と吉井神社御由緒には見えたり。社地に径二尺、三尺及四尺位の大松数本ありたり。

「昭和二十九年同三十年奥地林道開発事業（現在県道二百十号線に認定）により県道下に安置されたが後年の台風で倒壊、御神体は近くの民家で祠られてゐるときく」



# 28 齋院ノ神社

当地不詳

戌亥（北西）に向つて一の瓦宮据えらる、前に石の手水鉢あり、自然石の階段高し、

祭神は道祖神どうそじんにして、祈願に足半草履あしなかを奉納する習俗あり。

また此の地に古塚あり、東氏の祖と伝う。社地に檜の古木数本、雑木あまたあり、現存す。



齋院木神



神木檜古木三本 2007年9月撮影

「当社地は井内大橋右岸「里道修繕碑」の処より昇り社地には手前に嗽石と刻された手水鉢あり奥の平地に瓦宮据へられ周囲には檜の古木数木と檜の古木など崖山がけやまの頂きに雑木林の森となり時々、参拝者のあるを認める」

29 天満宮

国木原に一本の女め夫おと松まつありき、男樹は直径三尺女樹は同二尺五寸位あり、近郷に珍らしき樹相なりしが、その本に小祠あり、例月二十五日には村童清書を奉るならわしたり、之れ菅公（菅原道真）が御霊をまつりたるものなるべし。

「当社は地番もなく、知る先人もなく確認出来なかつたが、一説には通稱二本松ではないか？とも、松の木二本ありたりしが枯木となり、その根本は附近にひな納の場所ありとの事であったが当地の小字は二本松と聞く、国木原にあらず！」





# 30 地藏蔵堂

千百四十一番地第三にあり、二間に二間半の堂未申（南西）向に建ち、地藏菩薩を祀る。

此の堂もと齋院の下にありしが、何時の頃かここに移されたり。



移転安置された地藏菩薩

「当社は②若宮社と同様車道改修により支障となり本尊地藏菩薩は旧北間会堂甲一一三二ノ一に移し石像安置される。会堂は現在使用されず老朽化が進んでゐる。」



旧北間会堂 甲1132の1番地 2007年8月撮影

# 31 吉井神社

千三百五十八番地にあり、当村の氏社にして、社殿は正殿二間に二間半、中殿四間半に二間余、拝殿四間半に二間四尺五寸、戌（西北西）の方向に建つ。

祭神は固と、多紀理毘売命、市寸島毘売命、多紀津毘売命の三女と正哉吾勝々速日天之忍穂耳尊、天之穗日命、天津日子根命、活津日子根命、熊野久須毘命の五男神なりしが、天正十八（一五九〇）年台命により左記七社の祭神を合祀せり。

河内一宮 祭神 罔象女神、饒速日命  
日生宮 祭神 天照皇大神 天道日女命

新居田神社

同

月夜見命 倉稻魂神

風宮社

同

来名戸祖神 級長津彦神 級長津媛命

熊野宮

同

級長津彦神 天神地祇

明神社

同

瓊瓊杵命、

天神宮

同

神日本磐余彦命（神武天皇）

同

同

大己貴命 少名彦命

大国主命

又明治三（一八七〇）年藩命により、井内中二十三社の祭神を合祀したるが、之は境内摂社（本社に付属し、本社に縁故の深い神をまつた神社の称。本社と末社の中間）巖島神社に合祀せるなりとも云い又、同年元太平にありし天神宮の社殿を此の境内に遷し現に氏社本殿と並立せるが右二十三社は合してこの社殿に祀るなりともいふ、その何れを正しとなすべきや據る

べき証明なし。その二十三社の祭神とは左の御神なり。

巖島神社	祭神	たごりひめのみこと 田心姫命、多紀津姫命 いちきしまひめのみこと 市杵島姫命
天満宮	同	管公御霊
瀧本社	同	たきりひめのみこと 多紀理毘売命、伊弉册命 はやたまおのみこと 早玉男命、事解男命
天神宮	同	管公御霊
素鷲社	祭神	おおなむちのみこと 大己貴命 少名彦命 すさのおのみこと 須佐之男命
竈神社	同	おきつひめのみこと 奥津比古命、奥津姫命
一ノ宮社	同	おおいちひめのみこと 大市姫命 (食物)
白尾社	同	さるたひのみこと 猿田彦命 (道祖神)
蛭子社	同	ひるこのみこと 蛭子命 (えびす事代主命と同神)
山神社	同	おおやまづみのみこと 大山積命
若宮社	同	戒能備前守霊

西山社	同	たおきほおのみこと 手置帆負命、彦狭知命
熊野社	同	はやたまおのみこと 早玉負命、事解男命
新田霊社	同	ひじりのかみ 義貞霊 (新田義貞公)
聖神社	同	聖神
熊野社	同	いざなぎのみこと 伊弉册命
北間神社	同	うけもろかみ 保食神
金毘羅社	同	おおものぬしのかみ 大物主神
風宮社	同	しなつひめのみこと 級長津彦命、 級長津比女神
鎮守三島社	同	おおやまつみのみこと 大山津見命 面足命
伊弉册社	同	かしこねのみこと 惶根命 倉稻魂命
竈神社	同	いざなぎのみこと 伊弉册命
金毘羅社	同	おきつひめのみこと 奥津彦命 奥津姫命
		おおものぬしのかみ 大物主神

此の明治三年合祀と彼の天正十八年の合祀とは重複して同社同一神が二度合祀されたる等も

ありと看る<sup>み</sup>べし。撰社巖島神社の社殿は今は跡形もなし。元大平にありし天神宮にして現在吉井神社境内に遷されある社殿は正殿一間半四面、中殿三間に一間半、拝殿三間に二間半なり。

吉井神社の神宝として古来鎧一着、大太刀一口及中殿に大鈴一個伝えありしが太刀は今は無し、その太刀もと戒能備前守の寄進せしものなりと云われたりき。

境内には櫺材の大華表一基、石の手水鉢一個、石燈籠二対、自然石兜石<sup>かぶといし</sup>一個あり、祭礼のために幟十五本、提灯十五張、提灯台二対を備う。

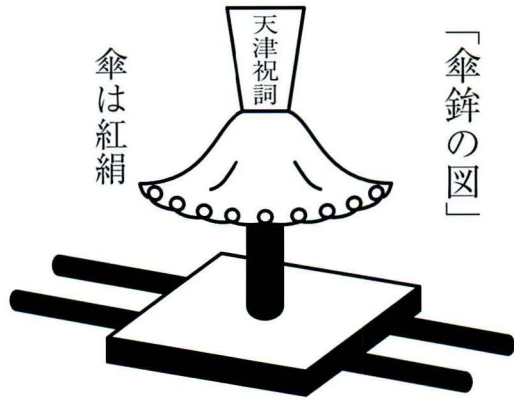
境内森林には、大杉直径三尺四寸、同三尺、同二尺九寸位のもの各一本、又直径四尺の黒松一本あり、同く赤松一本ありしが大正中枯損したり。径一尺三寸ばかりの羅漢柏<sup>あすなろ</sup>一本、大椎直径二尺、二尺九寸、三尺四寸等のもの数本及楓数株ありて秋季美しく紅葉す、尚雑木無数に生

いたり。

当社祭礼は例年八月七日にして御白洲に龍虎の絹席二対を樹て、社前に十五の幟立ち、又十数張の提灯に御明しを入れて宵祭には神楽を奏し、当日には神輿渡御あり。

神霊正殿より降る時静謐<sup>せいひつ</sup>の声とともに参拝者一同平伏し合掌して迎え奉り、神霊神輿に遷り給え<sup>か</sup>ば白装束に袴の輿丁麻の櫺<sup>たすき</sup>がけ勇ましく之を昇<sup>か</sup>ぎて宮出しす。先ばらいをして庚申堂一、

### 「傘鉦の図」



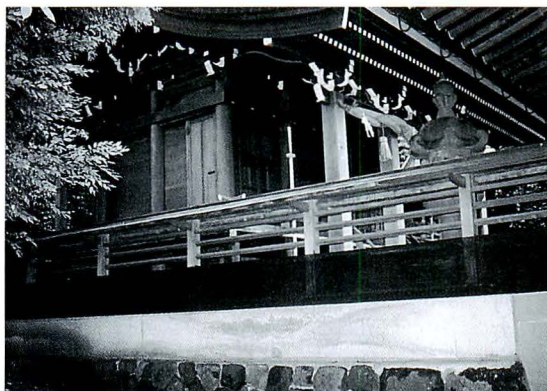
大鉦一対、傘鉦（以上二人兒）鎗一対、毛鎗一対、神鷹一対、横笛一対、神饌数台、御幣<sup>へい</sup>帛<sup>はく</sup>一本行く、次で神輿が進み、神馬一頭、大小太鼓、ついで獅子の一行等之に随い、お

旅所迄練る。お旅所は社務所前の神田の中にあ  
り、こゝにて神饌を献じ、祝詞のりとを奏して式を終  
り、それから神輿は神主、庄屋、組頭その他氏  
子中願出の家に請拜によりて渡御とぎよす、幣帛、大  
魔は尚之に随い、神職は馬又歩行にて、大傘持  
一人を従え、又練裁許ねりざいきよは上下着用かみしもにて随行、村  
内一巡の上還神し、それより社前に於て相撲を  
奉るを例とす。

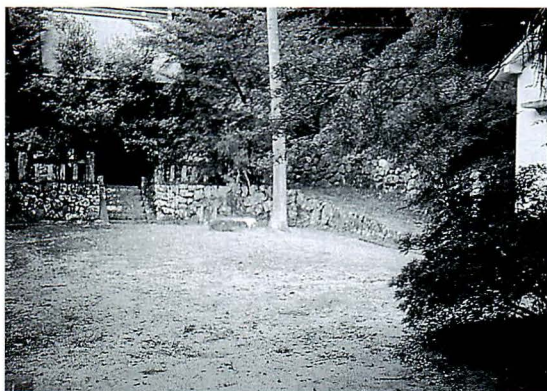
獅子は氏子中より年々祭礼に奉納する行事に  
して、獅子一頭、猿一匹、狐二匹出でて、爺婆  
の種蒔きを荒らす仕草あり、その時美装し紅、  
白粉に化粧したる獵師現われて獅子を撃取る型  
を為す、獵師は七、八才の童児にして之を獅子  
起しという。

この行事先ず宮出しに先だちて拝殿に於て行わ  
れ、それよりお旅所、神主の邸、その他到る所  
にて演技す

往時この祭礼には社前より郷蔵（元ありし）  
の下迄沿道五間毎に一個宛あんどうの行燈がともされし  
が今は絶えたり。又明治初年奉献したるものに  
して金の幣帛へいはく、紫縮緬ちりめんの幕、神名石あり、その  
頃手水鉢を造り替えられ、賽路も改修されたり。  
外征の後戦捷記念碑ししょうも建ち、戦利品の献納もあ  
りたり。近くは昭和三（一九二八）年御即位記  
念を兼ねて、注連石しめいし、春日形の燈籠一對、狛狗こまいぬ  
一對、石華表、石造幟杭二十五本を建造し、本  
社、合社正殿へ各御戸張御簾、紫縮緬の御幕を  
献納し、国旗一對、提灯、幟、木綿の大幕並に  
神輿をも新調せり。又神橋を石材にて架替え、  
華表前の土地狭溢なるによつて、戒能氏より畑  
地二畝二十五歩を献ずる等面目大いに革あらたまつたり。  
当時神職は豊田馬次郎氏、氏子総代は高須賀  
熊吉、近藤愛次、菅野曾一郎、同苗唯次郎の諸  
氏なりき。



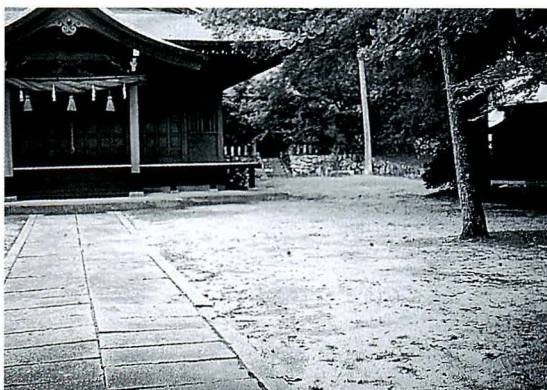
三間社流造 本殿側面



吉井神社 摂神



吉井神社 境内



吉井神社拝殿及び参道



吉井神社々叢の遠望 2007年9月撮影

〔凡例〕

明治拾（一八七八）丁丑年

(一)、吉井神社氏子総代、菅野唯次郎外三名連名にて、大正九年五月（日付なし）愛媛県知事馬渡俊雄殿宛の書類によれば当社の社掌、吉田正繹氏以前の歴代の社掌の氏名在職年が記録され、吉田氏没後の神職についても記録され、昭和十五年以降については今回追記したものであり

長曾我部清記 吉田正繹ノ父土佐正ト称セリ 長曾我部姓元秦氏ナリシトテ一時秦氏ヲ名乗リ後吉田ト改ム 二月十二日没

井内の総鎮守社としての由来の一端が窺へる。

凡例(一)ノ二、三内村則之内村社 三島神社々掌 野口 光男

(二)、添付せる設計図は、設計者 窪田文治郎氏当社の本殿拜殿の平面図、姿図の一部

吉田正繹病没後兼務 吉田氏ニハ長男逞三次男 勲氏アルモ 後日神職相続セズ

凡例(一)ノ一、

愛媛県温泉郡三内村大字井内村社 吉井神社 氏子総代

川上村郷社五柱大宮神社社司 野口 秀明 兼務 越智群上朝倉村 矢矧神社々家 田窪 吉綿

大正九年五月 菅野唯二郎 近藤 愛次 菅野喜太郎

野口秀明兼務中吉井神社々務所ニ詰切り代勤ス

八木 福三

周桑郡桜樹村五社大明神社家 渡部 近治

愛媛県知事馬渡俊雄殿 日付 漏レ 社掌 吉田 正繹

大正十五年ヨリ昭和三年二月迄社掌勤務

五拾四年間 奉仕

周桑郡田野村県社綾延 八幡宮社家 勲八等 豊田馬次郎

大正十（一九二二）年六月二日七十三歳ノ長寿ヲ保チ病没

従前吉田家ノ神職

慶応二（一八六六）年六月二十日生 昭和三（一九二八）年三月八日付社掌奉務

天明七（一七八七） 未年 前対州藤原盛秀

同十四（一九三九）年二月二十四日 老齡且病氣ニ付辞表提

正月初四日没 百四十四年前（※執筆時より）

出 勤統満十九年

享和四（一八〇四）年甲子天 前相州藤原臣敷秦

八月二十四日没 百一十七年前（※執筆時より）

昭和十五年二月十日（昭和二十六年五月） 権名津 涉

文化四（一八〇七）丁卯星 前兵部正藤原敷躬

昭和二十六年（昭和三十年） 後藤 伝次郎

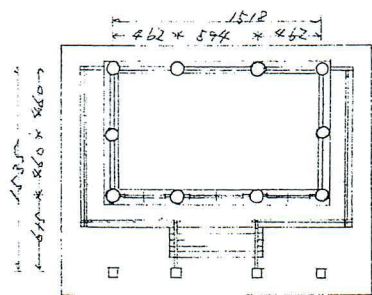
六月十九日没 百二十四年前（※執筆時より）

昭和三十年六月（昭和五十六年） 権名津 涉

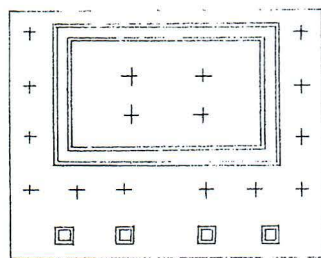
天保七（一八三六）年丙申年 前越前正藤原臣正躬

昭和五十六年（現在に至る） 権名津 義寛

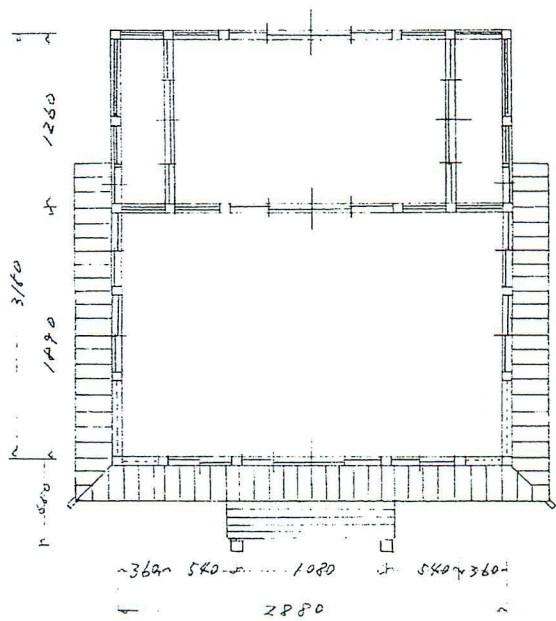
霜月（十一月）二十四日没 九十五年前（※執筆時より）



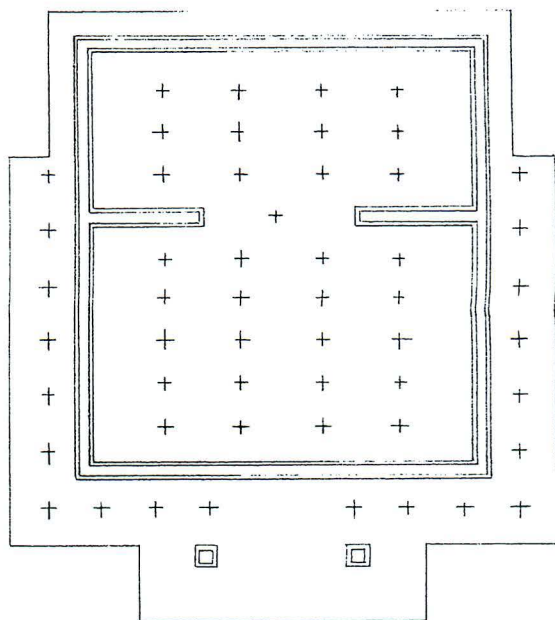
本殿  
平面圖  
1/100



基礎  
伏  
1/100



拝殿  
平面圖  
1/100





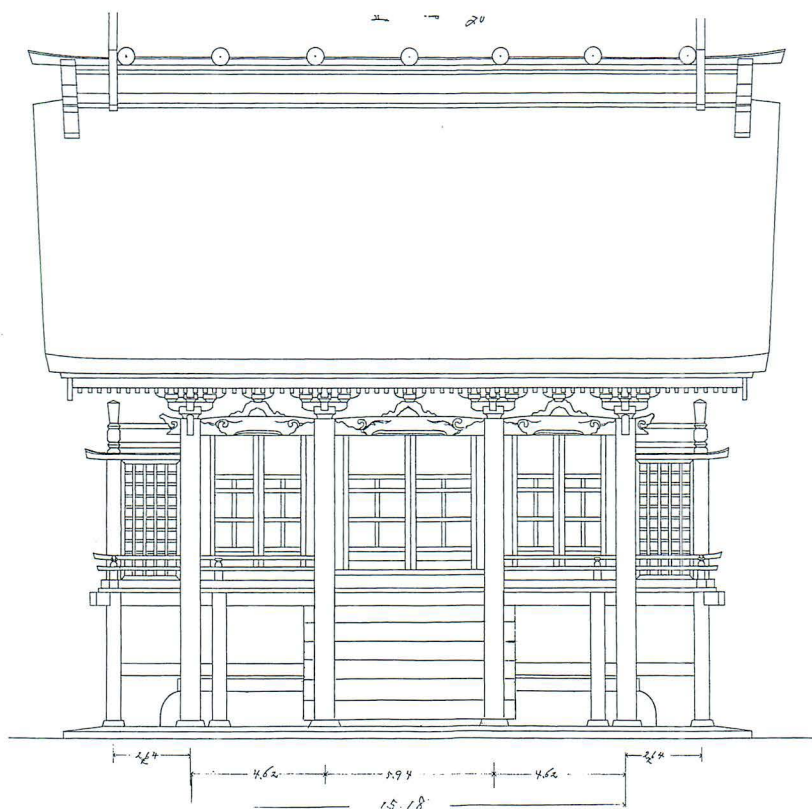
川内町

吉井神社本殿設計姿面

凡例(二)ノ二

設計者

菅田文政郎



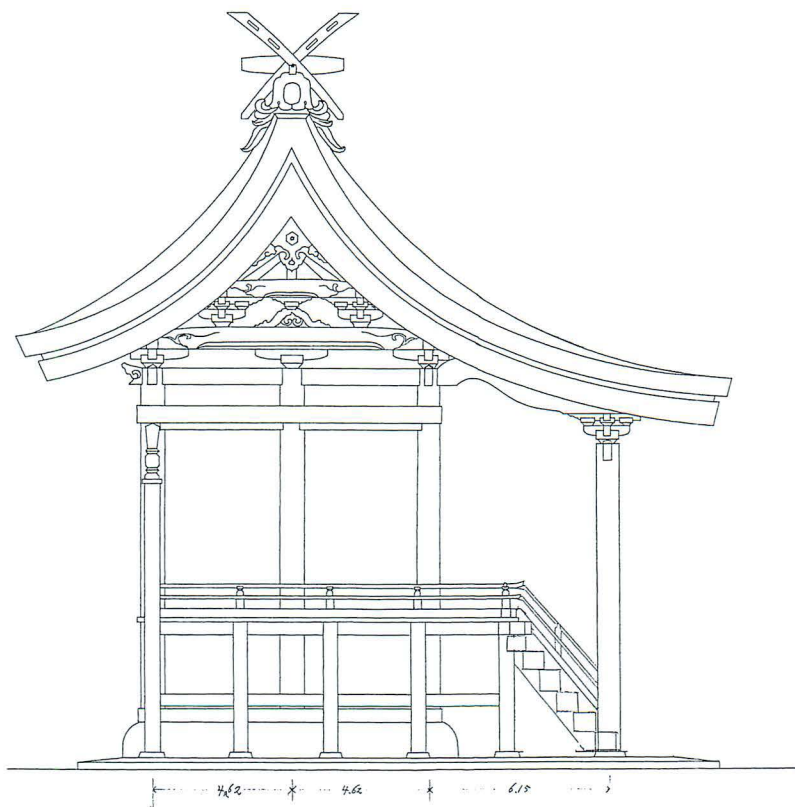
川内町

吉井神社本殿設計姿面

凡例(二)ノ三

設計者

菅田文政郎



## 32 金毘羅神社

乙三百四番地第二にあり、社殿は辰巳（南東）

に向い、石の瑞籬みずがき正殿を囲み、石の階段あり、

祭神は大物主の命おおものぬしにしてははじめこの社は字ス

クモ塚かかにありしが安政二（一八五五）年卯八月

二十五日火災に罹り、今の地に遷し、近年に到

り三間半に三間瓦葺の拝殿を新築したるも亦廢

されて、現在は跡地に数本の若松並ぶを見るの

みなり。

「社殿は記録の通り、幾多の変遷を経たる故か？通稱、金毘羅山の中腹に社地跡あり、石垣、拝殿の鬼瓦破片。基礎石など、山モ、の老木あり、附近は檜の植林に覆われて、晝尚暗し」



金毘羅社跡地  
2007年7月撮影

# 33 山之神社

字上ヤシキ乙二百五十七番地にあり、もところ、

に天狗が翼を息めると言伝えられし大松径二尺

五寸ばかりのもの一本ありき、

祭神は明治初年頃勧請せし

ものにて

一般的には（大山祇命）



2007年8月 枯大松あり

「地元会員の案内を受けた、現  
地には往時の大松の古木雑木  
林の中にあり根本に石段の崩  
れた積石あり瓦の祠一個現存  
す、案内の某氏が祖父と参詣  
した記憶ありとか。現在は参  
詣跡なし」



2007年8月撮影

# 34 地蔵堂

甲千九百三十九番地に方九尺の堂あり、辰巳  
(南東) 向に建ち、本尊地蔵菩薩の石像を安置  
す、太鼓大小あり



東向路傍にあり 2007年7月撮影

「当堂字は廃屋となり蔵元会堂に地蔵尊  
菩薩の石像を安置せしが昭和五十年代  
に井内公民館を同地に建築したる際に  
吉井神社神主墓地の一角に小祠を建て  
移転安置された」

# 35 大通庵

千八百五十二番地第一にあり、五間に二間半の本堂に本尊阿弥陀如来と弘法大師を祀る。寺地に石燈籠一对、大榎一本あり、又桜樹多くすべて境域美麗を極む。戒能通運みちのぶ以下同氏本家及一門の墓並に河野家氏族の墓もあり

「庵地の南東に町道あり、県道岐れより庵地の一部を分割民有地と掘割り昇り周囲が道路となる寺地には大榎はなく江戸彼岸桜（市指定木）あり」



大通庵



大通庵の墓地 2007年9月撮影

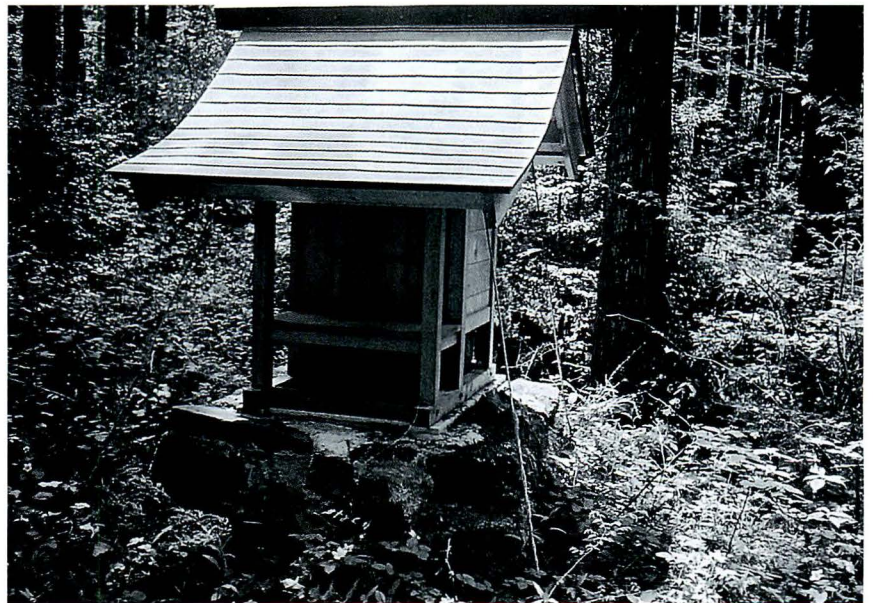
# 36 善 神 社

乙五百七十八番地にあり、正殿二尺、拝殿二間四方亥子（北微西）に向う、本地は善神森にありて井内川西の雨乞所なり

祭神（記されず）

大宝院を以て別当となす。社地に径二尺五寸及一尺位の松四本あり、石籠一對と共に現存す。

大平の横瀧山とこの善神森の間に三十六王子を祀ると云われ、善神社その一つたり。



2007年4月撮影

「中野組六人の寄進により、平成十三年十月に善神社再建された。四隅をワイヤで固定一・〇〇一・三高さ一・五の祠銅版葺檜造り」

# 37 山之神社

五百七番地山林に石の祠あり、子丑（北微東）  
に向う。

祭神は大山津見命おおよまつみのみことなり

石の階段あり、石燈籠一対あり、径四尺の大  
松二本あり。

「二〇〇七年四月調査、松はなし境内に  
は四本の大杉（直径五〇厘以上）を中  
心に雑本多数にて森となり祠を覆ふ、  
毎年一月四日には参拝者ありしが、今  
は稀なり」



2007年4月撮影

# 38 圓満寺(薬師)

千五百七十四番地にあり、月光山円満寺といふ本堂は二間に二間二尺辰（南東微南）の方に向う、本尊薬師如来にして行基が作なりといえる尊像に、十二神の像を添えたり。前庭に石燈籠一對あり、一字一石塔二基建つ、その内一基は長門国の住人權左衛門寄進し他の一基は当村八木伝蔵の寄進に成ると伝う。

菅野伊三太の弟八木安太郎が幼時植えしといふ銀杏樹昭和二（一九二七）年頃径二尺余のものありき。



▶ 圓満寺参道よりの遠眺  
銀杏の大樹があり東向に建つ  
2007年8月撮影



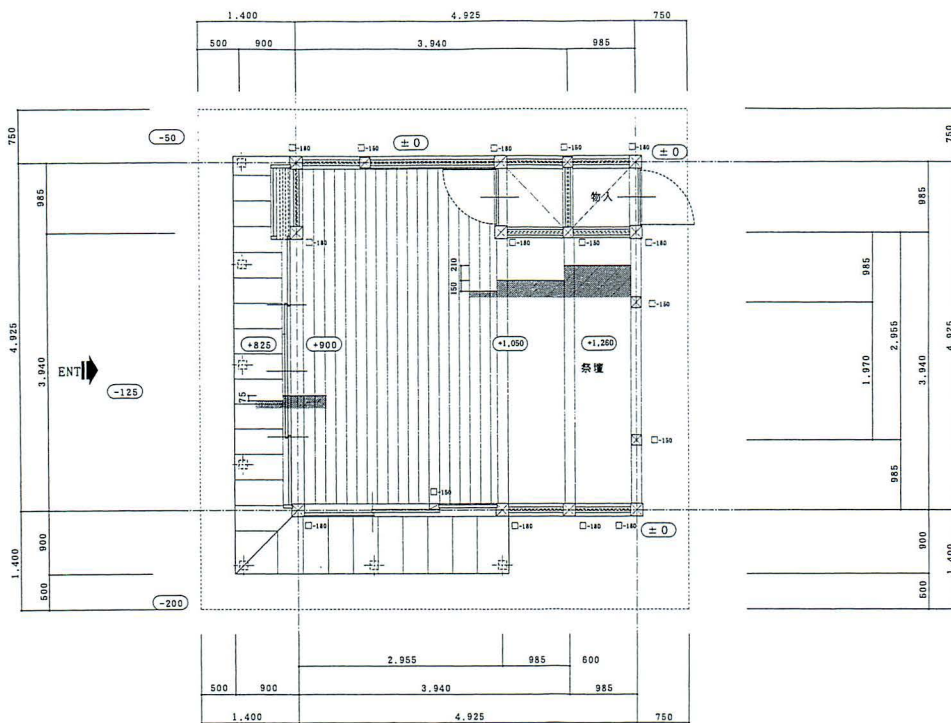
新築記念碑



堂正面

「当寺は平成十六年十月中野組中六人により本堂を改築し、組中の崇敬篤きことが窺える。銅版葺檜材を使い宮大工の巧の技により由緒ある寺としての風格を備う、前庭の石塔など 往時と変らず、大銀杏樹根廻り三・五米樹高三十三米余の巨木あり。地元の信仰篤きは勿論、近郷の参拝者は今尚多し（新築設計図別添の通り）」

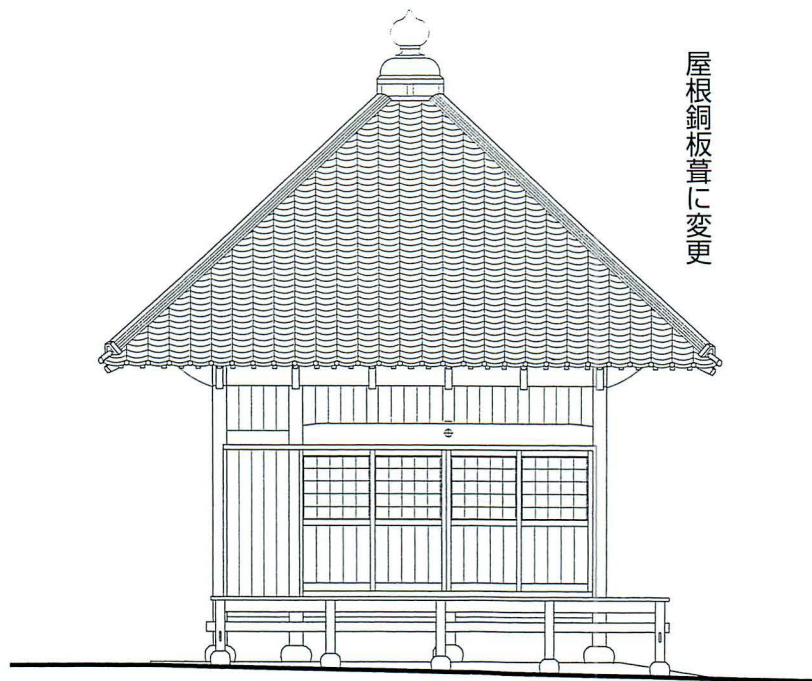




平面詳細図 S=1:50

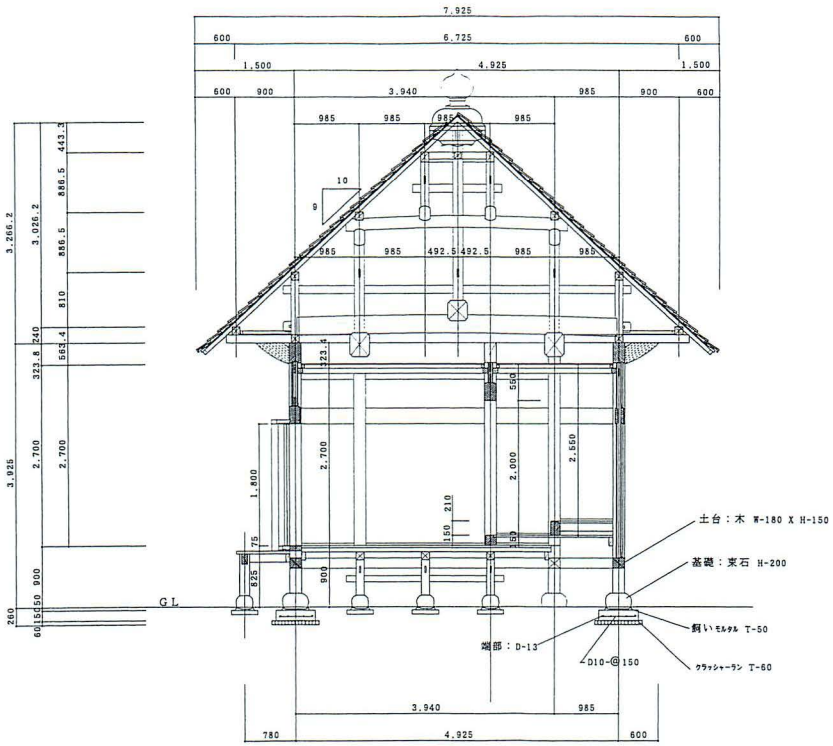
床面積 : 24.25㎡ ( 7.34坪)

建築面積 : 35.10㎡ ( 10.62坪)

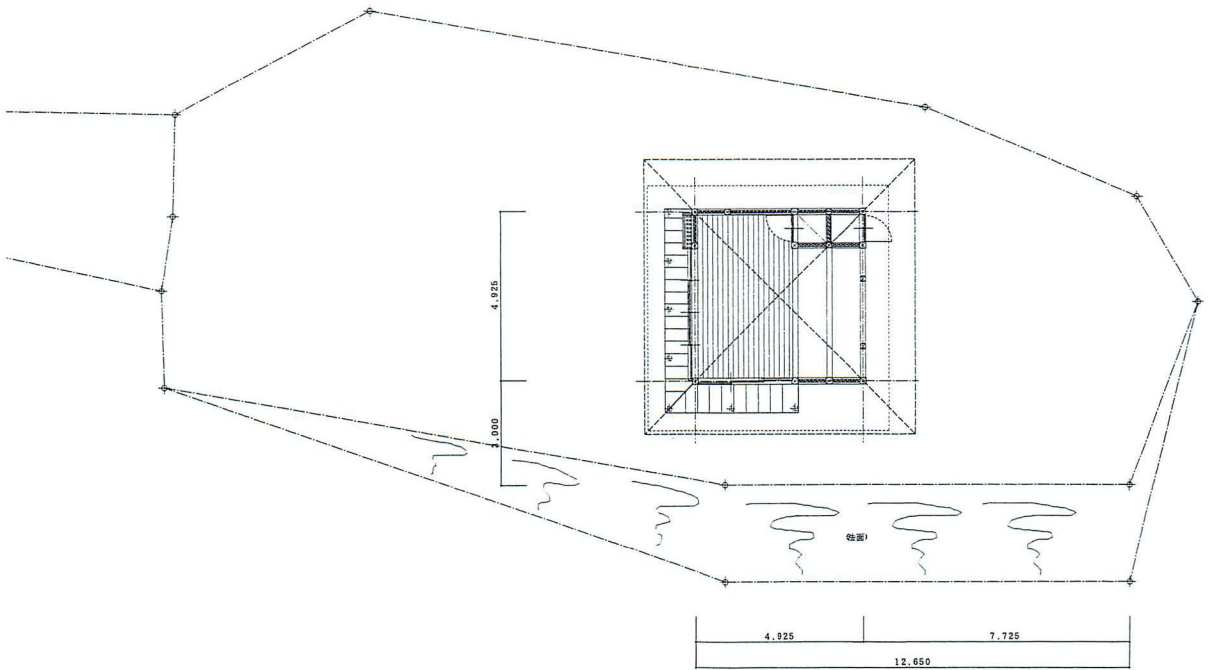


屋根銅板葺に変更

正面立面詳細図 S=1:50



断面詳細図 S=1:50



# 39 馬野寺

千三百九十九番地にあり、仲尾山と号し大宝院と称す、本堂二間四面、南向に建ち、本尊不動明王を祀りしが修験道廃止令と共に廃寺となり、本尊は同組の薬師堂に合祀せり、大宝院の跡は丹生谷善八の家系に伝わ（以下欠字）

「現地は水田となり又区画整備によりその跡地の面影を止めず。

本尊は円満寺に合祀されたり、近くの墓地には無縫塔の山伏の墓がある」



# 40 天神社

甲二千五百六番地にあり、正殿一間五尺、拝殿方三面、西面す、祭神はおおなむちのみこと大己貴命、すくむひのみこと少名彦命なり、境内に石の手水鉢あり、幟四本、提灯六張を献ず、棕の大樹その径五尺五寸位のもの三本、雑木数十本、真竹あまたありたり、年々祭礼には神楽を奏したりしが絶えぬ。

「当社地は宮ノ谷池（新池）の西側旧道の添にあり、正殿拝殿は礎石のみ残り奥の石積に石祠あり、社地内は刈拂はれ附近には雑木生い茂れり」



2007年7月撮影

41 ひじり 聖 神 社

チヨチケ藪と称する草山ノ中腹嶽根にあり。

五尺ばかりの宮東向にありて、ひじりかみ 聖神を祀りたり。

聖神とは須佐男尊の子大年ノ神の第五男なり。すさのおのみこと おおとし

※信太明神…和泉国の聖神社

「チヨチケ藪なる地番を税務課土地係にて閲覧するも一ヶ所あるのみ、俗に此の附近をチヨチケ藪と呼称せるものと推察され往時は草山にて久尾と大根木の旧道ありたると聞くも、現在附近一帯は植林成木林にして急傾斜で崩壊のため通行不能とのことにて手掛もなく確認不能」



## 42 白尾神社

乙五十五番地にあり、正殿は六尺に五尺、拝殿は一間半に二間北面す。

祭神は猿田比古命さるたひこのみことなり、社前に釣鐘桜と称する桜の老樹ありたり、その径五尺ばかり、珍らしきものなりしが今は社殿と共に無く、雑木、真竹等生き茂る。

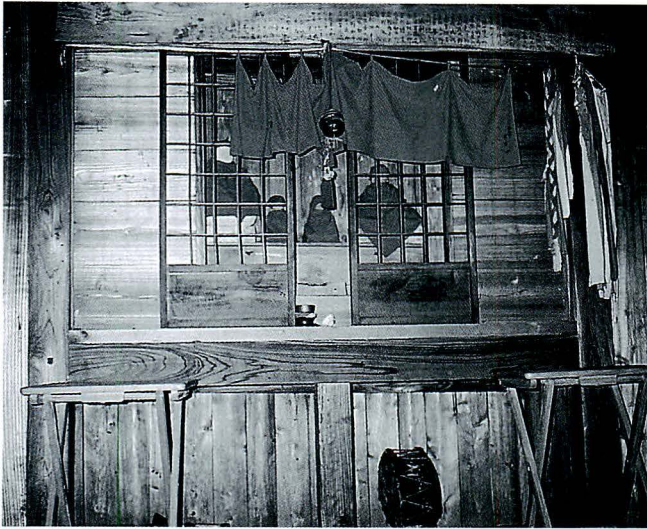
「社地内に塩ヶ森テレビ塔用工事道が通り昭和五十年貫通し、現在はその道路も舗装され久尾側の登山道となって居り、社地は道路の上側にあり釣鐘桜は道路下側に有り老木なりしが、春は美しく咲く花は釣鐘のような花卉であり、江戸彼岸桜とし、市指定の天然記念物である。社殿跡の老木のそばに小祠あり」



2007年7月撮影

# 43 地蔵堂

甲二千四百十九番地にあり、二間四面の堂東向に建ちて地蔵菩薩を祀る。古来乳を給わると伝えられて婦女の参詣多し。



拝殿内部

「現地は甲二千四百十四番地にして白尾神社に隣接して居り石段を登りたる処に、近年波トタン葺の仮本殿を旧社の古材を使用して地元有志建設と聞く。その社殿内に石像四体を祀る、拝殿上縁には寄進者の氏名が記され、供物などあり参詣者多かりし事がうかがえる。境内には銀杏の老木があり、乳房の如く垂れ下った氣根あり。(地番現地と照合して訂正せり)」



拝殿外部 2007年7月撮影

# 44 天王社

乙百四十八番地にて、正殿一間拝殿二間半四方辰巳（南東）に面したり。

祭神は須佐男命、年々神楽を奏したり。  
すさのおのみこと

前庭に石燈籠一对、石の手水鉢一個現存す、又幟八本並提灯四張を献じたり、社地檜の大樹数株及径一尺八寸位の桜一本あり、雑木、真竹等茂り合えりしが今はすべて莫し

「当社地の下には林道開通と、（利山に通ず）旧久尾道の岐れ上に往時の切石段あり、処々崩れたるも十数段昇りし処に社地跡あり、礎石のみ残りたる平地あり道路開通で隔った所に石燈籠二基現存す」



天王社跡地 2007年9月撮影



天王社石段



大根木之部

45 山 王 社

石造の小祠東面して大山津見命おおやまづみのみことを祀れり、  
四尺ばかりの大松一本現存す。 径

「地元会員の案内を得て踏査するも地番不明につき確認出来なかった。因みに当大根木地区は西北は峰により囲まれ南東向に丘陵地帯が拓け地味肥沃にして、明治末期頃には十七戸の住家がありしが、今はなく往時の屋敷跡の石垣貯水池跡など認められしが、畑地宅地跡は一面の杉檜が林立している。近くには上林道の道標あり」  
(古老よりの云伝へを聞きたり)



2007年9月撮影 貯水池跡

# 46 西之宮

甲二千七十五番地にあり、当時は東向に方九尺の本殿ありてひるこのみこ蛭子命を祀りたり。

社地大榎一本と小雑木沢山あり。

「当社地は戦後の開墾地にして当時は畑地となりしが、時を経て荒地となり、その地に植林成木林となるも西之宮跡地として平地あるも、本殿など現存せず、確認出来ない」



2007年9月撮影

47 観音堂

椎ノ木谷に在り、一間半に二間の堂ありて本尊観世音菩薩を祀る。もと大根の上墓の近傍にありしが、近年坂の上に移し現存せり。

「甲二二〇四番地に小祠ら現存せり」



2007年7月撮影

# 48 水 神 社

七百八十六番地に、上製石造の祠現存す、

みずはのめのかみ にぎはやひのみこと  
罔象能女神と饒速日命を祀る。

社地に小杉三本あり、明治初年迄は径五尺五寸位の大杉二本ありたりき、又元の社殿は四尺ばかりの檜作りの宮狭屋の内でありしなり。



2007年4月撮影

「大杉三木調査時確認す直径五十糎余、附近には清水溢出し黒岩組の飲料水供給施設として利用されてゐる」

# 49 西山神社

高さ二尺、正面一尺五寸の小祠ありたり、

手置帆負命、彦狭知命の二神を祀る。

幟二本を献じたりしが今はあらず。

「跡地は自然石台座長さ一米と一・五米の二段となり手前に石段あり、社地の北向は高さ十米余の断がい絶壁の一枚岩あり南面石積あり、附近は雑木茂り森となる」



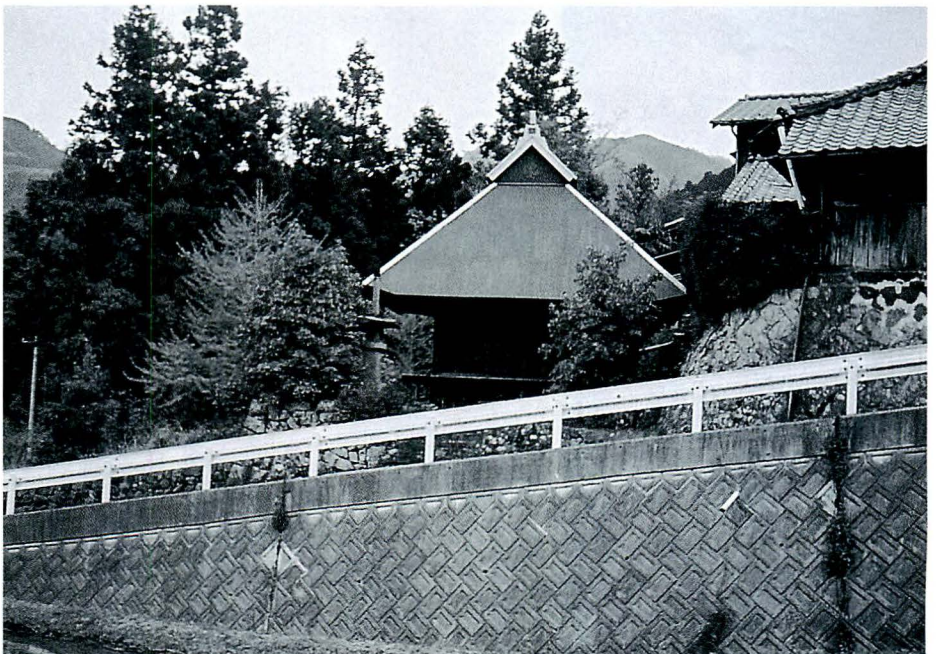
2007年4月撮影

50 観音堂

千六百五十二番地にあり、二間四方の堂西戌（西微北）に面して建つ。観世音菩薩を祀れり。石の手水鉢と石燈籠各一個現存す。

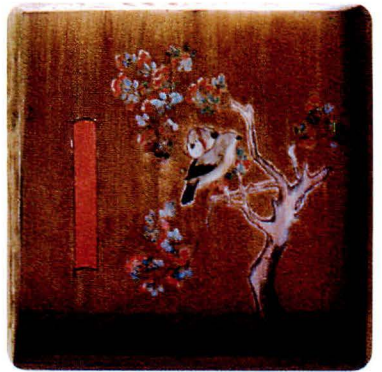
「堂の屋根は昭和五十年に波トタン葺とした。堂内天井には天井繪がありしが作者不明、又何時画かかれたか知れず、彩色極めて鮮かなり、後日の調査に待ち度い。」

堂の厨子内に石造観音像を祀れり黒岩組中輪番にて清掃管理して毎年八月念佛供養あり」  
（天井繪四十八枚）

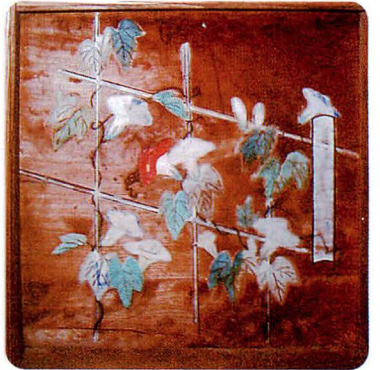


2007年4月撮影











# 大根木山之神社

「大根木山之神社祠らあり下の写真の如く横約七〇糎高さ九〇糎の石像あり正面山神社左側面大根木組、右側面に明治二十三年の石刻あり。」



2007年9月撮影

# 久尾山之神社

「『ひょうたん池』の土堤下の台地畑の中程に、石造りの祠あり、内面に山之神社明治二十二年の刻印あり

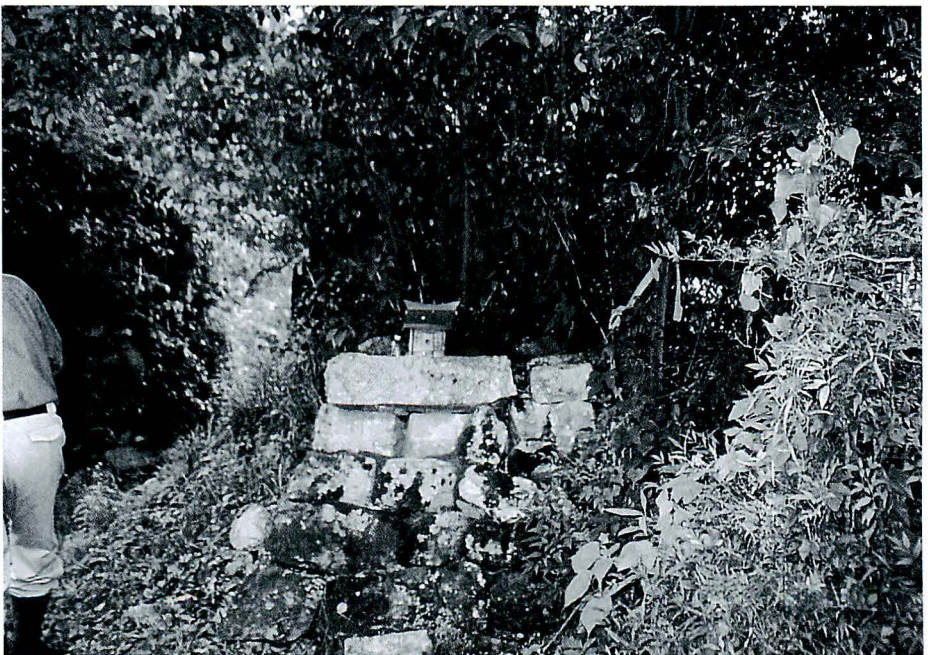
祭神は大山祇命なりしか？」



2007年7月撮影

# 久尾春尾権現社

「甲二四九七番地にあり、当社は社寺誌には掲載なかりしが、地元久尾地区では標記の如く呼称され、古くより崇敬篤く、戦後の一時期までは、春祭りの行事なども行はれ散餅などもあり、多数の参詣者ありしときく、台座は切石積にて、高さ一・五米、巾一・八米に小祠あり  
ヤマニツケの老木あり 祭神不明」



春尾社全景 2007年7月撮影

## 吉井神社改築（しめ縄づくり奉仕）

井内老人クラブ

「吉井神社」井内字宮ノ森古代起源、天正十八年河内一宮日生新田神社風宮と、熊野宮明神宮天神宮を合せて総河内八社明神と称した。吉井神社となったのは明治三年である。（「川内新町誌」より）その後幾度か改修がなされたが、現在の社殿は昭和四十六年大改築に着手し銅版葺総檜造りで堅ろう優美にして、この社殿は時の無形文化財、人間国宝、窪田文次郎翁の設計監督により同年十月完成した。尚此の社殿改築の財源は、昭和八年神職豊田馬次郎氏の熱意と総代氏子の協議により川東八ノ山の七町歩に杉檜の植林撫育管理一切を氏子の長年に亘る労力奉仕により見事な美林に成長し、昭和四十六年伐採処分した。（「社殿改築記念碑」一部引用）

建築財源に充当した残余は、当社の基本財産積立て更にスクモ塚に新に神社林として買収現在育成してゐる。その当時の木材価格の好況が伺へる。此のような社殿改築によって新装なった拝殿に相応しい注連縄を高須賀富太郎氏が寄進奉納されたが、一度銅線巻替など施して居るが、三十年の長年月により老朽化著しく、新調してはとの話は老人会に於いても度々話し合われたものの、稲藁確保の問題、何よりも、しめ縄造りの技に全く自信がなく、時を過ぎて居たところ、曲里の和田佐太郎氏が川上神社、

その他の神社のしめ縄造りを指導されている由の記事が新聞紙上に掲載されたので、早速神社総代長、東一夫氏が和田氏に依頼され御快諾を得て、早速準備に取りかかり、総代長、東一夫氏は三畝歩余りの新藁をすぐり小束にして提供（大変な労力であったと思う）当日は総代長外三人の総代に井内老人クラブ員十余名が年の瀬も迫る昨年（平成十三年）十一月三十日朝、神社拝殿に集まり、和田氏の巧の技と、熱誠溢れる率先指導に励まされ、本殿、中殿、拜殿、末社、手洗鉢の五ヶ所にしめ縄を新調奉納することが出来た。長年の懸案作業が完成した。

終日の労れもなく気分爽快、つるべ落しの初冬、境内は茜色の夕日に映へ久しぶりに充足感に浸る事が出来た。

此の奉仕作業は我々老人会にとつては、生涯に一度の機会であり、その巡り合が出来た有難さに感謝すると共に、改めて和田佐太郎氏の献身的な御奉仕に敬意と感謝を申し上げる次第である。

「由緒深き吉井神社が井内の鎮守の宮として氏子中の御加護賜わんことを祈りつつ……」

（平成十四年四月「川内老連だより」より）

※後日豊田馬次郎氏の労に応へて、宮総代有志一行が同氏の出身地、丹原町田野の墓地を参拝、遺族の方と歓談した。

その後豊田氏遺族の吉井神社への参拝もあった。

## 井内社寺誌復刻編さんを終えて

先ず本誌の復刻編さんに思いついたのはかれこれ一年前頃であり、丁度黒岩組中の古文書函より「井内社寺誌」を拝借して目を透す事としたが、印刷も薄れ文中には変体仮名、略字など浅学の身を以って難解な部分が多く、かれこれ思案難渋したが、識者の指導を受けて漸く原稿用紙に転記する事が出来た。社寺誌の内容には当然なことながら、祭神名、菩薩名が記されてゐる。この部分についても振り仮名を付けるなどして読み易くした。此のようにして何回か繰返し通読する内に、自然と現地踏査して確めた思いにかられ、老人クラブ役員にも諮り、往時（昭和三年頃）と現在を比較検証。現地の写真等を撮り内容を観察して、その証として後世に残すに充分価値ある事業であり、これこそ老人会の仕事であると意見一致をみた次第である。

然しその編集委員（老人会男役員全員）も令八十超の者もあり、五十ヶ所に及ぶ社寺を巡歴する事は容易な事ではなく、井内地区内とは云へ久尾く大平など多くの辺地山野であり、踏査もその所在番地を巡り、地区の人達の好意的な案内に支へられ、又励ましの声援を受け後押されるような勇気を与えて呉れた御陰で、ここまで辿り付けた想いで一杯である。

何より嬉しかった事は踏査の際にその地番に往時の社寺跡に出合へた時の感激、何とも云へない思いがした。又現存しない、確認に出来なかつた社寺も数ヶ所あり、八十年の時代の流れを沁々と感じた。此の現地踏査の完成の裏には社寺中の難所中の難所、横滝山、赤松山頂、仲屋奈良原社外数社については地元有志により写真撮影など格別な協力を戴いた事を感謝申上げたい。幾多のハードルを越え脱稿する事出来た

が振り返って力不足のため拙ない復刻となった事を御叱正御寛容を賜りたい。

最後になりましたが本誌の表紙絵こそ我が井内在住の画家、菅野輝雄氏の作であり、古里井内の懐しの善神山連峰であり本誌に相応しいものであり御快諾下さった御好意に対して厚く御礼申し上げます。

追って今年は殊の外の猛暑日の連続であったが、本誌の現地踏査も、計画通り四月より九月の六ヶ月間に、社寺数、五十ヶ処、外に三社を加へた調査が終った。

老人クラブ役員（編集委員）はもとより、地区での案内を戴いた各位の、暑い時期多忙の処御先導戴いたその御好意に対し、改めて深甚の謝意を表したく地区別に御名前を掲載致します。

大平地区 菅野 勝氏（社寺写真提供）

〃 菅野 謙一氏

成地区 東 繁義氏

六地藏地区 城戸 明氏

仲屋地区 鶴見 恵子氏（社寺写真提供）

〃 渡部 信猛氏

庄屋元区 八木 秀之氏

大根木区 東 勉氏夫妻（社寺写真提供）

久尾区 渡部 頼一氏・八木新三郎氏

○編集委員、監修委員、敬称略す（順不同）

編集委員

大野 鎮雄 菅野 壽明

渡部 孝雄 菅野 孝雄

八木 石松 橋本 靜雄

監修委員

酒井 孝

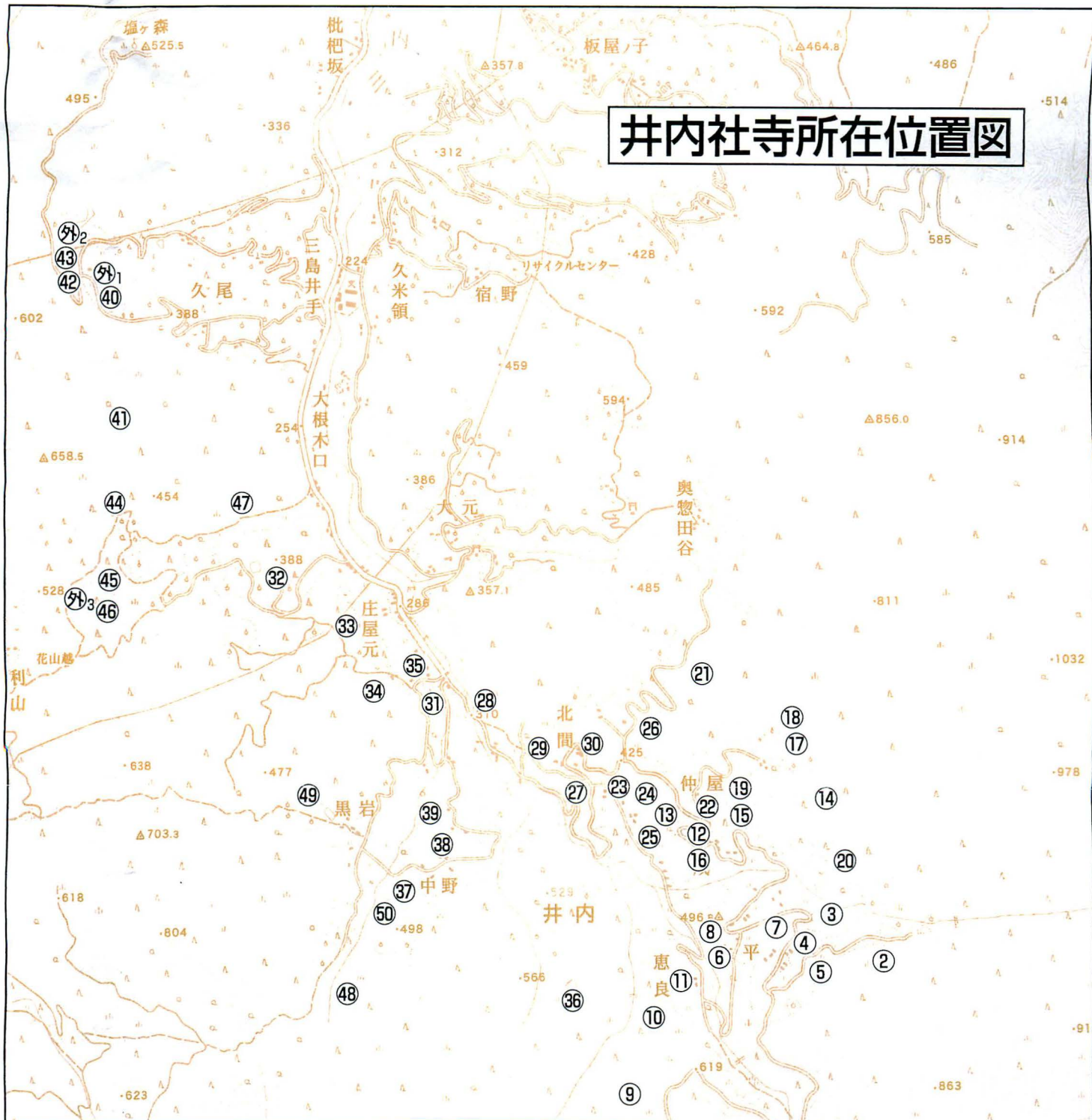
権名津義寛

平成十九年十二月吉日

編集委員 菅野 壽明



# 井内社寺所在位置図



番号	社寺名	番号	社寺名	番号	社寺名	番号	社寺名
①	横 瀧 山	⑭	ツバ <sup>ツバ</sup> 村 神 社	⑳	若 宮 神 社	④①	天 神 社
②	天 王 山	⑮	地 蔵 堂	㉑	齊 院ノ神 社	④②	○ <sup>○</sup> 聖 神 社
③	山 神 社	⑯	善 城 寺	㉒	天 満 宮	④③	白 尾 神 社
④	権 現 社	⑰	風 宮 社	㉓	地 蔵 堂	④④	地 蔵 堂
⑤	荒 神 社	⑱	新 居 田 社	㉔	吉 井 神 社	④⑤	天 王 社
⑥	天 神 社	⑲	迦 登 美 古 神 社	㉕	金 毘 羅 神 社	④⑥	山 王 社
⑦	古 堂	⑳	熊 野 神 社	㉖	山 之 神 社	④⑦	西 之 宮
⑧	香 積 庵	㉑	奈 良 原 社	㉗	地 蔵 堂	④⑧	観 音 堂
⑨	瀧 本 神 社	㉒	地 蔵 堂	㉘	大 通 庵	④⑨	水 神 社
⑩	山 神 社	㉓	一ノ宮 神 社	㉙	善 神 社	④⑩	西 山 神 社
⑪	地 蔵 堂	㉔	二ノ宮 神 社	㉚	山 之 神 社	④⑪	観 音 堂
⑫	三 島 神 社	㉕	六 地 蔵 堂	㉛	圓 満 寺	外 1	春 尾 権 現 社 (久 尾)
⑬	金 比 羅 神 社	㉖	北 間 神 社	㉜	馬 野 寺	外 2	山 之 神 社 (久 尾)
×	確認不能	外	今 次 登 載 し た 社	外 3	大 根 木 之 神 社 (大 根 木)		

# 井内社寺誌(復刻)

[非売品]

発行日 二〇〇七年十二月吉日

復刻者・編集委員 鑑修委員一同

発行所 井内老人クラブ

東温市井内一四二六

菅野 壽明

電話〇八九(九六六)三五七四

印刷 アマノ印刷有限公司

松山市東石井一丁目10-30

電話〇八九(九五六)二四四二

